



独立行政法人
国立国際医療研究センター

NCGM

National Center for Global Health and Medicine

国府台

発行人 〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1
国立国際医療研究センター国府台病院長 上村 直実
TEL:047(372)3501 FAX:047(372)1858



2015. 2月

第26号

[湯の花祭り]

しらはたてんじんじゃ
菅野にある白幡天神社で行われているお祭りです。春を呼ぶ祭りとも言われています。

目次

| | |
|--------------------|-----|
| ◇新任医師の挨拶 | 2 |
| ◇第68回国立病院総合医学会（横浜） | 2~4 |
| ◇地域医療連携病院のご紹介 | 5 |
| ◇児童精神科病棟の行事 | 5 |
| ◇市民公開講座の開催報告 | 6 |
| ◇認定看護師の活動紹介 | 6 |
| ◇内視鏡室の紹介 | 7 |
| ◇FDG-PET/CTのご案内 | 7 |
| ◇光トポグラフィ検査のご案内 | 8 |
| ◇クリスマスコンサート | 8 |
| ◇第16回肝臓病教室の開催報告 | 9 |
| ◇法人名の変更について | 9 |
| ◇第17回肝臓病教室のご案内 | 10 |
| ◇栄養一口メモ | 10 |
| ◇編集だより | 11 |

新任医師の挨拶

本年1月に着任した医師を紹介します。
どうぞよろしくお願ひします。



救急科医師
伊中 愛貴

みなさま、初めまして。1月より赴任いたしました、救急科医師の伊中愛貴（いなか あき）と申します。国立国際医療研究センター病院で研鑽をつみ、救急科専門医を取得しています。

平日日中、救急車で来院される方の診療を担当しています。救急車でいらっしゃる時はいろいろな不安やご心配があると思います。ご本人・ご家族へ丁寧な説明を心がけたいと思っています。若輩者ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。

第68回国立病院総合医学会(横浜)

平成26年11月14日(金)・15日(土)、パシフィコ横浜にて開催されました。毎年開催されている大規模な学会で、国立病院機構、国立高度専門医療研究センター、ハンセン病療養所の職員など約6千名が参加するものです。

今回のテーマは「次世代に継ぐ医療 ～元気で明るい医療の未来～」でした。毎回、当院職員が多数参加しております。発表を行った職員の学会参加報告を掲載させていただきます。



シンポジウム：医療系論文の書き方と注意点 - 「医療」に投稿して世の中に発信しよう- 精神科医長 榎本 哲郎

演題名「研究の設計図を作ろう」を発表しました。これは、国立医療学会誌「医療」編集委員会で企画したシンポジウムでした。国立病院勤めの様々な職種の皆さんから「医療」へ論文を投稿してほしいという目的で、医療系論文の書き方と注意点について、編集委員が分担して口演しました。

私の担当は研究の立案についてということでした。そこで、A3判の白紙を用意して、それにいろいろ書き込

んで「研究の設計図」にしていく方法を紹介いたしました。具体的な研究は、薬剤部の古澤由美子さん、看護部の朴桂栄さん、治験管理室の鈴木明日香さんに協力してもらいました。このシンポジウムの内容は、今年これから出版される国立医療学会誌「医療」に掲載されますので、興味のある方はお読みください。私はすでに原稿を投稿済みです。

口演：超音波検査が診断の一助となった巨細胞性動脈炎（側頭動脈炎）の一例 生理検査主任 澤部 祥子

巨細胞性動脈炎は、病変が眼動脈におよぶと失明の可能性もあるため早期診断が望まれますが、確定診断に至るにはなかなか難しい疾患です。今回の症例は、超音波検査で体表にある側頭動脈病変の検出や生検部位の特定、さらに経過観察までなし得たものです。超音波で側頭動脈を観察するのは初めての経験でしたが、リウマチ科の医師の指導により有意義な検査を行うことができました。超音波検査は非侵襲的で、繰り返し行うことができる手軽な検査です。特に体表領域は超音波検査の得意とするところですので、これからも積極的に行っていきたいと思います。

発表はパソコンを操作しながらの口演で緊張しましたが、会場には職場の同僚をはじめ関東甲信越の検査技師

や、指導を受けたリウマチ科の金子医師（センター病院）もかけつけてくださり、とても心強く感じました。また、専門学会にはない他職種の方々との交流もあり、貴重な経験をさせて頂きました。このような機会を与えてくださった皆様に感謝致します。



口演：2型糖尿病患者の食行動の特徴と精神疾患との関連

主任栄養士 古田 雅

2型糖尿病と精神疾患合併患者における食行動の特徴に関する比較検討を行い、国立病院総合医学会において口演発表致しました。

2型糖尿病の患者さんは、食事の動機や空腹・満腹感覚、食べ方、食事内容や食生活の規則性などの食行動において、特有の“ずれ”や“くせ”が認められ、食事療法の実行や継続を妨げる要因となることが報告されています。当院は一般科診療に加えて、精神科救急も担う高度専門医療研究センターである特色を有していることを活かして、2型糖尿病患者さんの食行動に関し、精神疾患の有無による差が生じていないかを調査致しました。

精神疾患を合併した2型糖尿病患者さんは、精神疾患を合併していない患者さんと比べて、肥満傾向が見られ、

精神疾患によると考えられる食事への固執や社会性を反映した特徴的な食行動を有しているという結果が得られました。

今後も臨床研究に取り組みながら、行動療法の要素を含めた支援方法を構築し、患者さんの治療に貢献するための、より効果的な栄養療法に繋げていけるよう励んでいきたいと考えています。



口演：2型糖尿病患者の血糖コントロールに関する精神疾患の関与

内科レジデント 竹内 悠

精神疾患は、糖尿病と並んで厚生労働省の指定する5大疾病の1つであり、近年増加傾向にあります。しかし精神疾患と血糖コントロールの関係は十分には解明されていないのが現状です。

当院は、精神科が主体の総合病院であると同時に、日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設でもあります。その環境を生かして、精神疾患の有無による2型糖尿病患者の背景や治療状況の差や、初診1年後の血糖コントロール目標達成（HbA1c 7%を目標値としました。）に関与する因子を明らかにすることを目的として、後ろ向き研究を行いました。

精神疾患合併群では、非合併群と比較し有意に年齢が若く、BMIが高く、HDLコレステロールが低値でしたが、一年後のHbA1cの値に有意差は認められず両群ともに良好な血糖コントロールが得られました。また、1年後のHbA1cが7%以上の群では7%未満の群と

比較し、精神疾患合併の有無に有意差を認めませんでした。ロジスティック回帰分析においても精神疾患合併の有無は、1年後のHbA1c 7%未満達成に関与していませんでした。

このことから、精神疾患を合併した糖尿病患者では非合併患者と比較して、患者背景に差はあるものの、1年間の観察期間において非合併患者と変わらない血糖コントロールの改善が認められたといえます。いずれの群でも低血糖による受診は無く適切な治療により安全に血糖コントロールの改善を図る事が出来ると考えられます。

現在も対象症例数を拡大し研究を継続しており、今後も当院の特色を生かした報告が出来ればと考えております。

また、今回の口演ではベスト口演賞もいただく事が出来ました。ご協力いただきました皆様に感謝いたします。

ポスターセッション：銅片加メセナミン銀液を用いたボディアン染色代替法の検討

病理検査主任 齋藤 広樹



ボディアン染色とは、中枢神経や末梢神経の軸索、アルツハイマー病の神経原線維変化や老人斑などの病的構造を明瞭に染色する神経病理学的分野において重要な染色法の一つです。

しかし、染色に使用するプロテイン銀が製造中止となったため、ボディアン染色が出来なくなりました。そこで、ボディアン染色に代わる銅片加メセナミン銀液を使用した神経原線維染色法を考案し、ボディアン染色との染色手順や染色結果の比較を報告しました。この染色法を検討するにあたり、たくさんの方々にご指導、ご助言していただき発表することができ、ベストポスター賞をいただくことができました。この経験を活かし今後も精進していきたいと考えています。

ポスターセッション：病棟薬剤業務に対する看護師の意識調査～病棟に薬剤師が配置されての一考察～ 3階北病棟 副看護師長 浦中 桂一



私が勤務する病棟（消化器・肝臓内科）では、当院で初めての試みとして平成25年7月から病棟に薬剤師が配置されました。このことによって、看護師は今まで以上に薬に関するアドバイスを受けやすくなり、最新の薬の知識を得て

患者さんにお薬を使うことができます。患者さんが安心して入院、治療を受けられるよう、今後も薬剤師、医師、その他の医療スタッフと協力していきます。

会場では、他院の薬剤師から質問や指摘をうけ、活発な意見交換をすることができました。学会に参加して学んだことを患者さんに還元し、今後も看護の質向上に努めていきたいと思っています。

ポスターセッション：敗血症性ショック後に無気肺・重症虚血下肢を呈したALSの一例 理学療法士 庄子 拓良

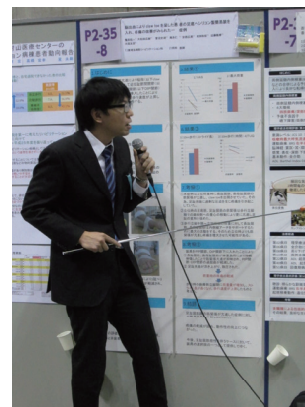
ALSとは脳や末梢神経からの命令を筋肉に伝える運動ニューロンが侵される病気で難病の一つです。さらには今回は両下肢壊死を合併していましたが、他職種の協力もありリハビリの時間には車椅子に乗って日光浴することができるようまでに改善しました。

今後も重症な症例であってもリハビリテーション科・他職種と協力して解決していきたいと思っています。今回の

国立病院総合医学会では他病院・他部門の方々の発表を聞く事ができ、とても有意義な時間を過ごす事ができました。今後も積極的に参加し、臨床・研究に励んでいきたいと思っています。



ポスターセッション：両側延髄内側梗塞に対するリハビリテーションの経験 理学療法士 吾妻 導人



今回経験した症例は、とてもめずらしく、亡くなってしまう方のほうが多い病気です。しかし、リハビリテーション科スタッフや医師・看護師などの医療スタッフが部門の垣根を越えて、チーム医療を邁進したことにより生命危機を乗り越えることが出来ました。また、リハビリテーション

病院を経由して最終的に生活動作が概ね自立され、ご自宅に退院されました。

今回の経験を通して、患者さんを中心とした医療スタッフ間の密な連携が非常に大切であると再確認することが出来ました。

今回の学会発表では普段聞く事の出来ない他部門の発表や症例報告に触れることができ、とても有意義な時間を過ごせました。この経験を今後の臨床に繋げていきたいと思っています。

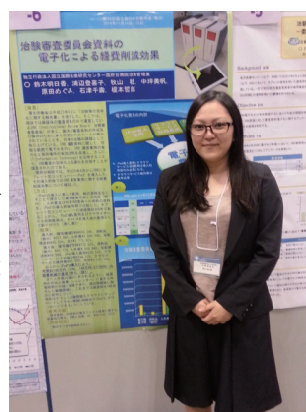
ポスターセッション：治験審査委員会資料の電子化による経費削減効果 事務助手 鈴木 明日香

当院では、平成25年4月から治験審査委員会にタブレット型コンピューター iPad®を導入しており、その導入前後での治験事務局業務の効率化、コスト削減効果について今回調査を行いました。

調査の結果、iPad®を導入したことにより紙資料の作成や廃棄に要する作業時間が大幅に減少し、また年間約39%もの経費を削減できたことがわかりました。しかし、現状では全ての紙資料を電子化することは難しく、

紙運用のままのものもあります。

今後は、現在紙運用の資料の電子化を目指し、さらなる作業時間や経費の削減を目標にしたいと思います。



地域医療連携病院のご紹介



市川駅前に小児神経クリニックを開業してもう22年すぎました。

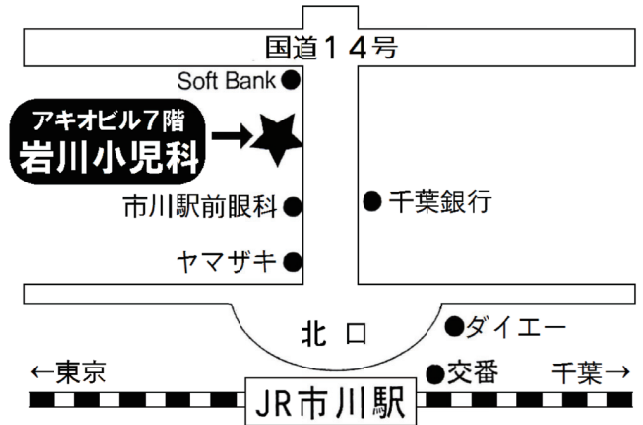
今の日本のどこに行っても同じ状況ですが、小児神経を標榜している医療機

関は発達障害の患者さんであふれかえっています。年齢制限がないクリニックゆえ、小児科とは名ばかりで、大人・高齢の方も多勢診療することになります。そのため国府台病院には、児童精神科をはじめ、精神科、眼科、内科、外科などあらゆる科にお世話になっています。感謝するのみです。

高度な医療が必要な患者さんたち、また心身共にハンディを持った患者さんたちの思いがけない“事件”にバックアップして下さる病院がなければやって行けません。今後ますますお世話になると思います。なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

岩川小児科 院長 岩川 善英

住所：市川市市川1-9-1
アキオビル7階 JR市川駅前
電話：047-323-5605
診療科：小児神経（発達障害、てんかんなど）
検査：脳波、各種誘発電位
診療時間：午前9:00～12:00
午後3:00～6:00（土曜は1:00まで）
木曜・日曜・祭日休診



児童精神科病棟の行事

【餅つき大会】



昨年12月、くもり空の中、病棟と分校（国府台小学校、市川第一中学校）の合同餅つき大会が行われました。

外では、マキ・炭を炊き、せいろで蒸されたもち米が次々と出来上がっていきます。病棟ホールでは、大きな臼に入れられたお餅を子供たちが順番に、「よいしょ、よいしょ」の掛け声とともに杵でついていきます。杵は重いため、小学生は二人で持ったり、先生と持ったりして頑張っていました。中学生男子は大きく杵をふり、「ペッタン」というお餅と臼から奏でる独特な力強い音が響き、迫力満点でした。前日から準備していた雑煮や、いそべ、あんこ、きな粉もおいしく出来ました。このように、仲間と一緒に手間暇かけて、つくたてのお餅を頂くことができ、子供たちにとって貴重な体験ができたと思います。

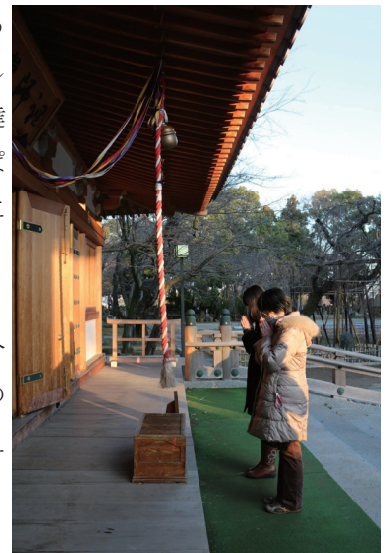
東3病棟 看護師長 多田 時江

【合格祈願】

入院している子供の中には、受験を控え頑張っている中学3年生がいます。

入院前は、引きこもりで学校に行けず過ごしていた子供たちが、入院して同じようなつらさを抱えた仲間と出会いました。様々な集団活動療法や分校への登校を通して、人とどう付き合っていけばいいかを考えてきました。医師や看護師、様々な職種のスタッフとの関わりから、自分の気持ちを言葉にして伝えることの大切さを学びました。このような子ども達の素敵などころをいっぱい探し、支えながら共に迎えた進路選択の季節。

真間山弘法寺に中学3年生と決意新たに手を合わせにいきました。どの子供も、笑顔の春を迎えられますようにと願ひ、止みません。



市民公開講座

毎年恒例の市民公開講座を開催いたしました。高齢者にスポットを当てて、より身近な内容を選んで演題を設定しました。



当日は、晴天には恵まれたものの、気温10℃と寒い日でしたが、市川、松戸、船橋、都内から、120名以上の参加がありました。

講演では、現在、肺炎は脳血管障害を抜いて、日本の死因第3位になっていること、液体と固体では、口の中で飲み込もうとする場所が違うこと、加齢によるもの忘れと認知症によるもの忘れの違い、などが紹介され、参加されているほとんどの方が、とても熱心にメモをとられていました。中にはノート持参で何



ページにも渡って記入されている方や「アンケート用紙の裏にメモを書いたのでアンケートは出せません」という方もいらっしゃいました。また、肺炎や認知症に関する質問も多くあり、関心の高さが窺えました。

認定看護師の活動紹介

高齢化に伴い、認知症をもつ人は年々増え続け462万人に及びます。当院にも認知症をもちながら病気の治療を受けるために入院する患者さんが多くいらっしゃいます。認知症をもつ患者さんは身体的な不調に加え、病院という慣れない環境におかれたことで不安や混乱を引き起こしやすくなります。認知症を持つ患者さんが安全で安心できる環境を整えて、必要とする医療を受け、よりよい経過をたどれるように支援するのが私の仕事です。



また、認知症に関する正しい知識やケアの方法を広めるために研修会や講演活動を行っております。昨年当院だけではなく、外部の看護系大学やヘルパーステーションなどでも講演しました。まだ手探りで活動している部分が多いのですが、多職種と連携して、認知症をもつ患者さんとご家族にとってよりよい看護を実践していきたいと思っています。

精神科認定看護師 青木 和貴

講演終了後には「わかりやすかった」「ぜひまた開いてほしい」と、たくさんの嬉しいお言葉を頂戴しました。

終了後に口腔ケアなどのサンプル品を自由にお持ち帰りいただきましたが、一部不適切なものがあり、ご迷惑をおかけいたしました。

当院では、近隣にお住まいの皆様積極的に最新の医療や役立つ情報をお届けしたいと考えています。定期的開催している、肝臓病教室（10ページ）の他にもいろいろな機会を通じて情報発信していきますので、ご参加をお待ちしております。

市民公開講座 高齢者に起こりやすい病気と その予防ケアについて

1. 高齢者に多い肺炎とその治療や予防について
内科医師 増井 良則
2. 高齢者の嚥下障害とその予防
摂食・嚥下障害看護認定看護師 宮地 麻美
3. 高齢者のうつ
精神科認定看護師 青木 和貴
4. 物忘れと認知症
認知症看護認定看護師 鎌田 満穂

開催日時：
平成27年2月14日（土曜日） 13時30分～15時

開催場所：
肝炎・免疫研究センター研修室A
（当院敷地内）

認知症看護認定看護師 鎌田 満穂

また、認知症に関する正しい知識やケアの方法を広めるために研修会や講演活動を行っております。昨年当院だけではなく、外部の看護系大学やヘルパーステーションなどでも講演しました。まだ手探りで活動している部分が多いのですが、多職種と連携して、認知症をもつ患者さんとご家族にとってよりよい看護を実践していきたいと思っています。



職 場 紹 介 ～今回は、内視鏡室を紹介します～

消化器科診療科長 小飯塚 仁彦

日本において消化器がん（食道・胃・結腸・肝臓・膵臓）で命を落とされる方は年間十数万人になります。しかし、消化器がんは決して怖いものではなく、正しい知識を持ち、定期的に消化器の健康をチェックする事で早期発見・治療が可能なものがほとんどです。私たちは、内視鏡室のスタッフの検査を受ける皆さんがより安全に不安を感じることなく、しっかりと消化器の健康をチェックできるようにサポートする事を大事にしています。

胃カメラ（上部内視鏡）と大腸カメラ（下部内視鏡）は連日行っております。当院では、少量の麻酔薬を使用して行う為に、苦痛の少ない内視鏡検査が可能です。また検査も拡大機能が付いた特殊な内視鏡で行っており、小さい病変まで見落とさないように心がけています。

平成25年4月より市川市で胃癌リスク検診（ABC検診）が開始されました。これまでのバリウムによる胃がん検診と異なり、採血によって胃癌のリスクが判明するという検診方法です。その利便性から、多くの市民が胃がん検診を受け、「胃癌リスクあり」と判定された方が二次検診（胃カメラ）を受けられました。当院も多くの方の二次検診を行いました。当院における胃癌の検出率は高く、市川市の病院で一番多くの胃癌を発見する事ができました。ま



た、そのほとんどが内視鏡で治療可能な早期胃癌でした。

内視鏡室スタッフ全員の「安全に検査・見落とさない・見逃さない」という日々の鍛錬が少しでも市民の皆様に還元できたものと自負しております。

胃や腸は毎日使うもの、消化器が元気であれば毎日の食事も楽しいものとなります。「お腹の健康」の為に「お腹の専門チーム」がお役に立ちますので、ご興味のある方はぜひ内視鏡検査をうけてください。消化器肝臓外来にてご相談にのらせていただきます。

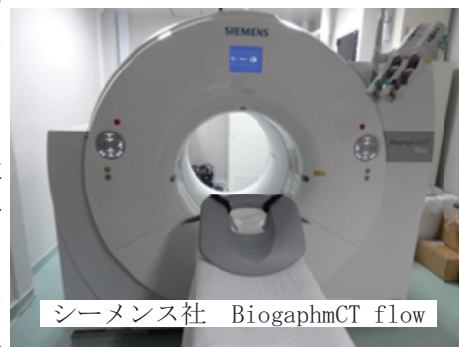
FDG-PET/CT検査の紹介

当院で導入している、最新のPET/CT検査装置をご紹介します。

PETとは、放射線を出す薬剤（放射性薬剤）を使って行う核医学検査の一種です。薬剤を体内に投与し、特殊なカメラでとらえて画像化します。CTなどの画像検査では、通常、頭部、胸部、腹部などと部位を絞って検査を行いますが、PET検査では、全身を一度に調べることが出来ます。

FDGはPETで使う放射性薬剤の1つで、ブドウ糖によく似た物質です。投与するとブドウ糖と同じように体に

取り込まれます。がんの治療評価や転移検索に用いられるのは、「がん細胞が正常細胞に比べより多くのブドウ糖を取り込む」という性質があるためです。



通常、がんなどの病巣を調べたり、腫瘍の大きさや場所の特定、良性・悪性の区別、転移状況や治療効果の判定、再発の診断などに利用されています。

全身を一度に調べられ、予想外のがんの発見に威力を発揮することから、がんの可能性が疑われながら他の検査で病巣が発見できない“原発不明癌”の診断や、がんの転移・再発を調べるのに特に重要な検査とされています。

地域の医療機関からのご予約をお待ちしています。

検査の料金

1回100,000円程度です。
自己負担3割の方であれば、1回30,000円前後です。

保険適用要件

・悪性腫瘍、悪性リンパ腫（早期胃がんを除く）：
他の画像診断により病期診断、転移、再発診断ができない時

※保険適用とならない疾患や目的の場合は、患者さんの全額自己負担（100,000円程度）になります。

お問い合わせ先

地域の医療機関：047-375-4744(地域連携室直通)

光トポグラフィー検査のご案内

うつ病を客観的に診断する検査である「光トポグラフィー検査」が、平成26年4月から保険診療で受診できるようになりましたのでご案内します。

この検査は、検査用の帽子を被り、頭部に近赤外光を当て、簡単な質問をした際の脳の血流状態を測定します。うつ病の方、双極性障害（躁うつ病）の方、統合失調症の方

・検査の料金

1回3,200～4,000円となります。自己負担3割の方であれば1回1,000円前後となります。ただし、当院初診の方は、初診料、診察料及び必要に応じて血液検査や心理検査等の費用が別途必要となります。

・検査にかかる時間

1時間程度です。

・検査の受け方

当院精神科または児童精神科に通院中の方は主治医にご相談ください。それ以外の方は、かかりつけ医にご相談ください。検査のみの受診はご案内しておりませんのでご承知おきください。



東2病棟医長 伊藤 寿彦
精神科医師 草西 俊

には、それぞれ特有の血流量の変化が起こるため、どの病気がうつ状態の原因なのかを特定することができます（現在は6～8割の精度であり、精神疾患の有無を確定したり、診断名を証明したりするものではありません。）。



あくまでも、問診の補助的なものですが、この検査で得られた結果が今後の治療をより適切なものとする、ひとつの手がかりとして役立つと期待されています。

※この検査は、うつ病として治療を受けている患者さんであって、治療抵抗性であること、統合失調症・双極性障害が疑われる症状を呈すること等により、うつ病と統合失調症又は双極性障害との鑑別が必要な方が対象です。
※検査ですので、治療効果はありません（病状が改善することはありません。）。

クリスマスコンサート

当院の行事の中で、今や最大のものといっても過言ではないのが、クリスマスコンサートです。昨年12月13日（土）にリハビリテーション室で開催され、盛会に終わりました。中心となって活動しているのは、アンサンブル国府台という小さな管弦楽団です。すべて当院の新旧職員（医師、看護師、事務など）で構成されています。それぞれの団員の忙しい合間を縫っての練習なので、決して完成度は高くはありませんが、患者さんやお客さんに少しでも楽しい時間を過ごして欲しいという思いから、



みんなで心を込めて演奏させていただいています。

毎年、クリスマスコンサートを楽しみにしてくださる常連さんも増えてきているようです。今回は、アンサンブル国府台だけでなく、

クリスマスコンサート実行委員会 田村 奈穂



三線ユニットや声楽アンサンブルも加わり、さらに幅広く充実したコンサートとなりました。人が心を込めて音を奏で、演奏者の心とお客さんのところが触れ合った時、感動が生まれます。患者さん中心の医療を毎日実践している当院だからこそこのコンサートがここにあります。見逃してしまった方も、毎年来られている方も、是非今年のクリスマスコンサートに皆さんお誘い合わせの上、おいでください。心よりお待ちしております。

※今年のコンサートの詳細は、11月号の広報誌および院内の掲示にてご案内します。

第16回 肝臓病教室の開催報告

年末の小雨の降る寒い日でしたが、75名と多くの参加者で講義室は熱気にあふれておりました。

まず、主任栄養士の古田が講演いたしました。肝硬変の患者さんには、腹水、足のむくみ、肝性脳症（アンモニア



が肝臓で解毒されずに脳に到達し精神症状を来す状態)などの合併症があります。それらに対しての塩分制限、タンパク質の

上手な摂取方法などについてお話いたしました。

その中で、病態（身体の状態）によって食事療法を変えるべきである、と強調されました。肝硬変の病態は複雑ですので、病院を受診し、知識のある管理栄養士に細やかな食事指導をしていただくのがよいと思われました（もちろん古田も指導にあたっています。）。また、当院に通院中

でない方も食事指導のみ受けることができるので、ご希望の方はお問い合わせください。



次に、肝炎情報センター長の正木が講演いたしました。ウイルス性肝炎の疫学、B型肝炎の治療、最近のB型肝炎治療に関する研究およびB型肝炎患者さんに対するアンケート調査結果についてでした。B型肝炎の経過観察にはALT（GPT）、HBV DNA（ウイルス量）、HBs抗

法人名の変更について

独立行政法人通則法の一部が改正されることに伴い、4月1日から「独立行政法人」から「国立研究開発法人」に変更いたします。

「国立研究開発法人」とは、研究開発に係る業務を主要な業務として、中長期的な目標・計画に基づき行うことにより、我が国の科学技術の水準の向上を通じた国民経済の発展その他の公益に資するため研究開発の最大限の成果を確保することを目的とする法人です。

肝炎・免疫研究センター

肝疾患先端治療室長 村田 一素

1. 肝硬変を進行させない食事療法と合併症がある場合の食事の進め方

栄養管理室 主任栄養士 古田 雅

2. B型肝炎の最新治療と今後の展望
～患者の望む創薬のあり方～

肝炎情報センター長 正木 尚彦

開催日時：

平成26年12月20日（土曜日） 14時～16時

開催場所：

肝炎・免疫研究センター研修室A
（当院敷地内）

※ 講演の終了後に肝炎、肝硬変、肝癌を中心に個別相談を行いました。

原量が重要で、それらを低下させる治療を行うことで肝炎の進行を止め、肝癌の発症を予防することができます。また、治療に関しては核酸アナログ製剤（飲み薬）やインターフェロン（注射剤）などがどのように効くか、その効果および副作用についての詳しいお話がありました。

その後に行われた個別相談会も盛況で、医師3名、古田主任栄養士の前には長蛇の列ができました。各人がご自分の検査結果などの資料を持って相談を受け、さらに不安を振り払って帰られたものと思います。

次回開催予定については、次ページを

ご覧ください。今後も皆様に役立ち、かつ病気に対する不安を解消させるような肝臓病教室を行ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



事務部 管理課長 菅沼 洋

厚生労働省関係ですと、国立国際医療研究センターの他に医薬基盤・健康・栄養研究所、国立がん研究センター、国立精神神経研究センター、国立成育医療研究センター等が「国立研究開発法人」に移行いたします。

病院機能、診療内容等に変更はありません。これからも、最善の総合医療を提供し、疾病の克服と健康の増進を通じて社会に貢献するよう職員一同努力して参ります。

第17回 肝臓病教室のご案内

日時：平成27年3月14日(土)
14:00～16:00
場所：国立国際医療研究センター国府台病院
肝炎・免疫研究センター研修室A

- ※ 予約は不要で、参加費は無料です。
- ※ 終了後に個別相談（肝炎、肝硬変、肝癌を中心に）も行います。
- ※ ご相談のある方は血液検査・CTなどの資料をお持ちいただくと、状態に応じた詳しい説明をお受けになれます。



プログラム

司会 肝疾患先端治療室長 村田 一素

1. 脂肪肝と非アルコール性脂肪肝炎の食事療法 ～無理なく継続していくための進め方～

栄養管理室 主任栄養士 古田 雅

2. C型肝炎治療後の肝臓はもう大丈夫？ ～HCV最新治療と忘れてはいけない生活習慣病～

肝疾患研修室長 是永 匡紹

お問い合わせ先：

〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1
国立国際医療研究センター国府台病院
肝炎・免疫研究センター 村田 一素
TEL: 047-375-4757(直)

栄養一口メモ

栄養管理室 栄養士 長洲 祐子

★★ 今回のテーマ： キャベツ ★★



意外と知らないキャベツ

キャベツは、品種や産地、栽培方法などによってたくさんありますが、大きく分けて「春キャベツ」と「冬キャベツ」があります。

春キャベツは別名新キャベツとも言います。秋に種を蒔いて翌年の春に収穫して新ものとして出回るものです。丸くて小さくふっくらとしており、葉の巻きがゆるくやわらかい特徴があります。水分が多く甘みがあってサラダ等の生食や浅漬け等に向いています。

冬キャベツは一般的なキャベツのことで、秋から初春にかけて多く作られています。形は楕円で、春キャベツに比べてずっしりと重みがあります。夏の終わりに植え付けをし、多くの葉が出てきた頃、冬の寒さに当たり、少しずつ時間をかけて蒔いていきます。その為、葉と葉の間には隙間がなく、葉の一枚一枚に厚みがあります。生食にする場合は千切りにして付け合せやサラダに使うほか、焼きそばやお好み焼き、さらに煮くずれしにくく甘みも増すのでポトフやロールキャベツなどに向いています。

キャベツの主な栄養素はビタミンC、K、カリウムになります。ビタミンCの含有量は特に多く、外葉1枚食べるだけでも、レモン1個分程度のビタミンC量を摂取できる食品です。この他にもキャベツから発見され、



＜春色サラダ＞

◇調理時間10分程度

◇材料（2人分）

キャベツ1/8個、にんじん1/8本、塩小さじ1杯、
玉ねぎ1/2個、レモン1/2個、キウイ1個

ドレッシング材料：プレーンヨーグルト大さじ1杯
フレンチドレッシング大さじ2杯

ドライパセリ少々（お好みで）

◇作り方

- ①キャベツ、にんじんを千切りしてビニール袋に塩と共に入れて、口を持ち振る。
- ②玉ねぎは薄切りにして、軽くもみ洗いして水気を切る。
- ③フルーツを一口大に切る。レモンは果肉のみを使用。ボウルでドレッシングの材料を混ぜて、水気を絞った①～③を混ぜ合わせ、器に盛って、ドライパセリを散らす。

～ビタミンたっぷり春色サラダのできあがり～

ビタミン様物質として報告されているキャベジンを含み、粘膜の再生に必要なたんぱく質の生成を助ける働きや傷ついた粘膜を修復するなど、潰瘍の予防や治療効果が期待されています。また、血液凝固を助けたり、骨を強くする作用のビタミンKやその他ミネラルも豊富に含まれているので、積極的に摂取していきましょう。

編集だより

編集部

“湯の花祭りをご紹介します”

祭りが行われる「白幡天神社」は、京成八幡駅から北側に徒歩10分ほどのところにあります。住宅街の中にある、緑豊かな境内です。境内はきれいに整備され、この季節は紅白の梅が咲き始めます。

今よりおよそ800年前の治承4年（西暦1180年）に、源頼朝が下総に入った際、当地に源氏の御印である白旗を掲げたことが御社名の由来と伝えられています。

神主の「エイッ」という気合の声で、熊笹の大束がぐらぐらと煮えたぎらせた熱湯に満たされた大釜に入れられます。その後、豪快に参拝客に振り掛けられます。無病息災を祈願するお祭りです。

神事後、熊笹は参詣者によって持ち帰られ、一年間大切に祀られます。そして、翌年の「湯の花祭り」の折に、大釜の湯を沸かす火にくべられます。毎年、2月20日に行われています。



幸田露伴および永井荷風の文学碑

かつてこの地に居住していた、2人の文豪の碑です。平成22年に建立されました。碑の横にある梅が咲き始めています。



田楽と甘酒

里芋とコンニャクの田楽と甘酒がふるまわれていました。素朴な優しい味わいです。



白幡天神公園

敷地に隣接して公園があります。



交通

- ・京成八幡駅から徒歩約7分
- ・JR総武線本八幡駅から徒歩約10分

外 来 診 療 担 当 医 師 一 覧 表

国立国際医療研究センター
国 府 台 病 院

Tel. 047-372-3501 (代表)

平成27年2月2日現在

| 診療科・曜日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | |
|--|---|--|--|--|--|-------------------------------|
| 内科 糖尿病・内分泌代謝科 呼吸器科 リウマチ・膠原病科 腎臓疾患 血液疾患 感染症 | 朽名 悟(総合) 増井 良則(総合) 柳内 秀勝(糖尿・内分泌)【予約制】 吉川 玲玖(糖尿・内分泌) 杉山 温人(呼吸器)【第1】 放生 雅章(呼吸器)【第2】 飯倉 元保(呼吸器)【第3】 菊池 嘉(感染症)【第4】 | 七澤 英敏(総合) 足立 洋希(総合) 小林 正敏(総合) 三島 修一(糖尿・内分泌)【予約制】 勝山 修行(糖尿・内分泌)【予約制】 多田 真奈美(腎臓疾患)【第1-3】 午前のみ 狩野 俊和(リウマチ・膠原病) 菱沼 留加(リウマチ・膠原病)【第2-3】 | 平石 千佳(総合) 勝山 修行(総合) 三島 修一(糖尿・内分泌)【予約制】 濱崎 秀崇(糖尿・内分泌)【予約制】 佐藤 輝彦(呼吸器) 増井 良則(リウマチ・膠原病) | 箱島 真理子(総合) 田中 真(総合)【第3】 濱崎 秀崇(総合) 峯山 智佳(糖尿・内分泌)【予約制】 柳内 秀勝(糖尿・内分泌)【予約制】 足立 洋希(糖尿・内分泌)午後のみ【予約制】 矢崎 博久(感染症)午前のみ 吉川 玲玖(リウマチ・膠原病) | 川口 明子(総合) 酒匂 赤人(総合) 竹内 悠(総合) 三島 修一(糖尿・内分泌)【予約制】 佐藤 輝彦(呼吸器) 狩野 俊和(リウマチ・膠原病) 萩原 将太郎(血液疾患)【第4】 午前のみ | |
| | 消化器・肝臓内科 上村 直実(一般) 赤酒 直樹(一般) 正木 尚彦(肝炎・肝臓) 青木 孝彦(肝炎・肝臓) | 小飯塚 仁彦(一般) 酒匂 赤人(一般) 溝上 雅史(肝炎・肝臓) 村田 一素(肝炎・肝臓) | 上村 直実(一般) 伊藤 光一(一般) 山極 洋子(肝炎・肝臓) 熊谷 恵里奈(肝炎・肝臓) | 矢田 智之(一般) 青木 洋一郎(一般) 今村 雅俊(肝炎・肝臓) 考藤 達哉(肝炎・肝臓) | 小飯塚 仁彦(一般) 大久保 恒希(一般) 今村 雅俊(肝炎・肝臓) 是永 匡紹(肝炎・肝臓) | |
| | 循環器科 一瀬 哲夫 | 賀嶋 俊隆 | 黄 文憲 | 岡崎 修(第1-2-3) 原 久男(第4) | 原 英彦 | |
| | 心療内科 初診 藤田 将樹(午前)(予約制) 棚橋 徳成(午後)(予約制) 再診 石川 俊男 須田 真史(午後) 羽部 正巳(隔週) | 石川 俊男 田村 奈穂 星 明孝 棚橋 徳成 | 石川 俊男(午前)(予約制) 知場 奈津子 | 田村 奈穂(終日)(予約制) 須田 真史(午後)(予約制) | 星 明孝(午前)(予約制) 棚橋 徳成 田村 奈穂 | |
| 神経内科 初診 本田 和弘(予約制) 再診 本田和弘(午後・予約のみ) 竹内社介【第3】(午前・予約のみ) | 休診 | 本田 和弘(予約制) 本田 和弘(午後・予約のみ) | 休診 | 本田 和弘(予約制) 本田 和弘(午後・予約のみ) | | |
| 外科 消化器外科 肝臓・胆嚢・膵臓外科 乳腺外科 内視鏡外科 ヘルニア外来 ストーマ外来(完全予約制) 脳神経外科 整形外科 皮膚科 泌尿器科 婦人科 眼科 養護外来 耳鼻咽喉科 麻酔科・ペインクリニック 心臓血管外科 ペースメーカー外来 救急科 | 熊澤 慶吾 熊澤 慶吾 熊澤 慶吾 熊澤 慶吾 熊澤 慶吾 西野 晶子 新井 元 佐久間 正寛 浅野 桐子 山澤 功二 山崎 廣子 原 治 休診 賀嶋 俊隆 PM賀嶋 俊隆(第3・予約制) 伊中 愛貴 | 交替制 交替制 交替制 交替制 香川 賢司(第1-3) 西野 晶子(第2-4) 手術日 佐久間 正寛 吉田 賢 休診 伊中 愛貴 | 原田 庸寛 青柳 信嘉(エコー) 青柳 信嘉(内視鏡)(第1-3) 原田 庸寛 新井 元 佐久間 正寛・東竹 逸子 長濱 克志 足立 康久 山澤 功二 手術日 原 治 東 俊晴(予約制・再診のみ) 秋田 作夢 伊中 愛貴 | 青柳 信嘉・小柳 剛 遠藤 大昌(AMエコー) 熊澤 慶吾(AMエコー) 原田 庸寛(AMエコー) 小柳 剛(AMエコー) 青柳 信嘉 青柳 信嘉 西野 晶子 新井 元(予約のみ) 佐久間 正寛 吉田 賢(10:30~) 山崎 廣子・柴 玉珠 原 治 休診 休診 休診 伊中 愛貴 | 遠藤 大昌 遠藤 大昌 遠藤 大昌 遠藤 大昌 西野 晶子 新井 元 尾崎 純三 佐久間 正寛・東竹 逸子 足立 康久 吉田 賢(10:30~) 柴 玉珠 PM山崎 廣子(第2・4予約制) 原 治 東 俊晴 秋田 作夢 休診 伊中 愛貴 | |
| | 初診 第1・3・5曜日 第2・4曜日 ①診 ②診 ③診 ④診 ⑤診 ⑥診 ⑦診 ⑧診 ⑨診 特診(予約制) 睡眠障害専門外来(完全予約制) | 中野 知恵子 榎本 哲郎 草西 俊 伊藤 寿彦 早川 達郎 塚田 和美 児童精神科 児童精神科 石井 千博 伊藤 順一郎 | 水田 康彦(午前)・柳澤 雄太(午後) 佐藤 護 榎本 哲郎 芦澤 裕子 吉見 太郎 中島 常夫 児童精神科 児童精神科 伊藤 順一郎 | 三浦 正史 中島 常夫 吉見 太郎 中野 知恵子 早川 達郎 水田 康彦 柳澤 順康 児童精神科 児童精神科 佐藤 護 | 草西 俊 芦澤 裕子 中野 知恵子 伊藤 寿彦 中島 常夫 塚田 和美 児童精神科 児童精神科 三浦 正史 | |
| | 初診 再診 | 毎週月曜日 対象者 中学生(15歳)以下 電話予約(水曜日10:00~12:00)が必要 | | | | |
| | 児童精神科 (予約制)再診 | 渡部 京太・宇佐美 政英 牛島 洋景・田中 徹哉 | 渡部 京太・牛島 洋景 岩垂 喜貴・田中 徹哉 | 宇佐美 政英・牛島 洋景 岩垂 喜貴・田中 徹哉 | 渡部 京太・宇佐美 政英 岩垂 喜貴・田中 徹哉 | 渡部 京太・宇佐美 政英 牛島 洋景・岩垂 喜貴 |
| | 放射線科 放射線診断 放射線治療 | 待鳥 詔洋 | 待鳥 詔洋 | 待鳥 詔洋 | 待鳥 詔洋 | 待鳥 詔洋 |
| | 歯科 初診(予約制) 再診 | 友田 衣早佳 友田 衣早佳 | 内野 三菜子(完全予約制) 友田 衣早佳/金丸 拓矢 | 内野 三菜子(完全予約制) 友田 衣早佳/金丸 拓矢 | 内野 三菜子(完全予約制) 金丸 拓矢 | 内野 三菜子(完全予約制) 友田 衣早佳/金丸 拓矢 |

(注) 1. 外科及び整形外科の担当医は、手術などの都合で変更(交替)になる場合があります。

- * 初診受付時間：8時00分～11時00分 * 再診受付時間：8時00分～11時00分
- ※1 フットケア外来は完全予約制です。診察時間は9時～9時30分、13時～13時30分の2枠。診察場所は内科外来第1診察室になります。(第4木曜日のみ14時45分～15時15分の1枠のみとなります。)
- ※2 循環器科：木曜日の初診診察は行っていません。
- ※3 心療内科：初診は完全予約制 電話受付時間は平日16～17時まで、又は平日心療内科外来窓口にて受付けます。(心療内科外来に半年以上来院していない場合は、再診ではなく初診となります。)
- ※4 神経内科：初診・再診ともに完全予約制 電話受付時間は平日16～17時 神経内科外来にて受付けます。
- ※5 外科：ストーマ外来は完全予約制で外科外来窓口にて受付けます。
- ※6 精神科：初診は1日4名迄(先着順) + 予約枠2名(電話予約受付時間は月・火・木・金(水ぞく)の14時～16時迄、又は平日精神科外来窓口にて受付けます。)
- ※7 睡眠障害専門外来の初診予約受付は電話のみ(047-372-3501)、当月の予約は前の月の平日1日16時から受付けます。(1日が土日祝日の場合は翌平日となります)
- ※8 児童精神科：初診予約受付は電話のみ。受付時間は水曜日10時～12時迄受け付けています。
- ※9 歯科外来：初診は予約制です。電話受付時間は平日16-17時 歯科外来にて受付けます。